【統計情報-更新版】

「直前予想模試」・追補

「パーフェクト宅建シリーズ」「楽学宅建シリーズ」「ゼロから宅建士シリーズ」

2020年8月28日現在

㈱住宅新報出版

注：『**パーフェクト宅建の直前予想模試**』の巻頭特集「**最新統計データ**」に関する**【追補】**はこの**【統計情報】**の「**6　土地白書**」部分となります（注：「**1～5**」は「**巻頭特集**」に**収録済み**です）。『**直前予想模試**』の読者様は、**3ページ目のみ**ご利用ください。

1　地価公示（「令和２年地価公示」、令和２年３月18日公表）

全国平均	●「全用途平均」は５年連続の上昇（1.4%）、上昇幅も４年連続で拡大し、上昇基調を強めている ●「住宅地」は３年**連続**（0.8%）、「商業地」は５年**連続**（3.1%）、「工業地」は４年**連続**（1.8%）の上昇となり、いずれも上昇基調を強めている
三大都市圏	●「全用途平均（2.1%）」は**上昇が継続**している ●「住宅地（1.1%）」「商業地」（5.4%）「工業地（2.4%）」のいずれについても、**各圏域で上昇が継続**している
地方圏	●「全用途平均（0.8%）」は２年連続で上昇が継続している ●「住宅地(0.5%)」は２年連続、「商業地(1.5%)」「工業地(1.1%)」は３年連続の上昇となり、いずれも上昇基調を強めている

注：（　）内は「前年と比較した地価変動率」

2　建築着工統計（「令和元年・年計」、令和２年１月31日公表）

●令和元年の「**新設住宅着工**」は、**持家および分譲住宅は増加**したが、貸家が減少したため、全体で**減少**となった。

●令和元年の「**新設住宅着工戸数**」は、**約90.5万戸**。前年比では「**4.0%減**」となり、３年連続の**減少**となった。

［利用関係別戸数］

① 持家	３年ぶりの増加（前年比 1.9%増、約 28.9 万戸）	
② 貸家	２年連続の減少（前年比 13.7%減、約 34.2 万戸）	
③ 分譲住宅	５年連続の増加（前年比 4.9%増、約 26.8 万戸）	
	マンション	昨年の減少から再びの**増加** （前年比 6.6%増、約 11.8 万戸）
	一戸建て	４年連続の**増加**（前年比3.6%増、約14.8万戸）

・持家：建築主が自分で居住する目的で建築するもの
・貸家：建築主が賃貸する目的で建築するもの
・分譲住宅：建売または分譲の目的で建築するもの

３　法人企業統計（「平成 30 年度法人企業統計年報」、令和元年９月２日公表）

売上高	約46兆5,000億円…前年度比7.1%**増**で、**４年連続の増加**
経常利益	約５兆1,000億円…前年度比15.0%**減**で、**３年ぶりの減少**

４　宅建業者数（国土交通省、令和元年９月30日公表）

●平成31年３月末（平成30年度末）現在での**宅地建物取引業者数**は、全体では**約12万4,000**（12万4,451）業者となっている。
●対前年度比では、５年連続の**増加**（0.5%）となった。

５　住宅・土地統計調査（「平成30年住宅・土地統計調査」、令和元年９月30日公表）

●**総住宅数**は 6,240 万７千戸と、2.9%の**増加**（対 2013 年比）、１世帯当たりの持ち住宅数は 1.16 戸
●**空き家数**は848万９千戸と3.6%の**増加**（対2013年比）、**空き家率**は**13.6%**と**過去最高**

注：「直前予想模試」の読者様は、下記「６、７」の情報をご利用ください

６　土地白書（「令和２年版土地白書」、令和２年６月16日公表）

① 土地取引件数

土地取引について、**売買による所有権の移転登記の件数**で、その動向をみると、令和元年の全国の土地取引件数は**約131万件**となり、**横ばいで推移**している。

② 土地利用の概況

平成30年における我が国の国土面積は**約3,780万ha**であり、このうち**森林**が約2,503万haと最も多く、次いで**農地**が442万haとなっており、これらで全国土面積の**約８割**を占めている。このほか、住宅地・工業用地等の**宅地**は**約196万ha**、道路は約140万ha、水面・河川・水路が約135万ha、原野等が約35万haとなっている。

７　指定流通機構の活用状況（令和２年４月20日、不動産流通推進センター公表）

●令和２年３月末（令和元年度末）現在、指定流通機構への**総登録件数**は、全体では**75万3,042件**（**前年度末比3.8%減**）となった。

●**売り物件**の件数が、賃貸物件の件数を**上回った**。